

平成 21 年度臨時（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 21 年 9 月 5 日（土） 10：00～15：30

場 所： 東京夢の島マリーナ 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、秋山雄治、河野博文、西岡一正、植松真、前田彰一、青山篤、児玉萬平、斉藤涉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄（委任：山崎達光） 倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾（委任：前田彰一） 小山利男、外山昌一、柴沼克己（委任：坂谷定生） 坂谷定生、山下記誉（委任：前田彰一） 吉田豊、宮崎史康（委任：前田彰一） 中村公俊、奥村文浩、吉留容子、金井寿雄（委任：山崎達光）

以上 27 名、内委任状 5 名

出席監事：高木伸学、浪川宏、栗原博

以上 3 名

オブザーバー：林賢之輔外洋計測委員長、大村雅一ルール委員長、安藤淳総務委員、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 6 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光が議長となり、平成 21 年度臨時（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、外山昌一、倭千鶴子の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）山崎会長から、本年唐津開催のレーザーワールドの運営は世界でも高い評価を受けた。今後、レーザーワールド、千葉リハーサル国体、新潟国体、ジャパンカップ、全日本インカレの開催があり、セーリング普及・発展に改めて努めていただきたい。

メンバー会費値上げで財政問題は安定したが、反面、賛助会費・寄付各社が若干減少している。財政健全化でメンバー増強に取り組んでいただいているが、各理事・団体での引き続きのご協力をいただきたい。東京オリンピック招致は 10 月 2 日に決定する。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

< 審議事項 >

1) 評議員の変更について

前田専務理事から資料に基づき、評議員の変更について説明があった。

長崎県セーリング連盟の最上修から古賀誠次氏に変更、宮崎県セーリング連盟の平島昇氏から樋口宗司氏に変更、日本スナイプ協会の古賀誠次氏から桑野安史氏に変更、日本ドラゴン協会の鈴木國央氏から山村尚史氏に変更、徳島ヨットクラブの瀬川洗城氏から久岡卓司氏に変更の提出があり、受理したとの発言があった。

承認された。

2) 特別加盟団体申請について

前田専務理事から資料に基づき、湘南サニーサイドマリナー株式会社の特別加盟団体申請について説明があった。平成 21 年 8 月 1 日付の提出書類(会員名簿、団体の会則等、決算報告書)は、特別加盟団体としての要件は満たしているとの発言があった。

宮崎理事から委任状に基づき、 営利企業団体は特別加盟団体として不適切である。過去のクラブ等の団体から推察しても、連盟メンバー増強に寄与していない。 株式会社としてのマリナー等は賛助会員として連盟活動に参画していただきたいとの反対があると、前田専務理事から発言があった。

児玉常務理事から、過去においてリビエラリゾートヨットクラブをクラブ自体の実績がないことで拒否したケースがあった。特別加盟団体規程では株式会社を認可できるし、実態としてヨットクラブ活動をしていることから認可する方向でかまわない。ただし、今後も同様の申請があることが推察できるので、結論づけが必要であるとの発言があった。

河野副会長から、県連・ジュニアとの協力体制をひいて、事態としてのクラブ活動があることから認められるとの発言があった。

小山(泰)理事から、OP・レーザーなどのジュニアの活動に協力的で実績があり、マリナー内に自主的にヨットクラブ活動も存在している。連盟は団体に門戸を広げるべきであるとの発言があった。

秋山副会長から、新公益法人改革では、営利を目的とする団体を傘下におくことに形式的に問題はないかとの質問があった。

高木監事から、特別加盟団体の意義ならび価値が不明確であることが問題で、ヨットクラブの定義および基準を定める必要がある。ヨットクラブが企業体そのもので、メンバーシップがないクラブもあることから、今後の検討課題とすることが望ましい。その上で今回の審議団体は、自主性のあるヨットクラブとして実態があることから、認可できるとの発言があった。

外山理事から、株式会社内でヨットクラブを組織して、その組織が加盟する旨、指導したほうが良いとの発言があった。

児玉常務理事から、すみやかにクラブの条件を提示したいことから、RRS 主催団体の解釈上に沿った見解を、ルール委員会およびレース委員会からご提案いただきたい

との発言があった。

秋山副会長から、組織問題をクリアにする（株式会社内にヨットクラブを組織する）ことで、審議保留にするべきであるとの発言があった。

河野副会長から、クラブとしての実績があることで認可できる。自主的なクラブ活動も会社の金銭的援助で成立している背景がある。既存の加盟・特別加盟団体とのレース及び普及活動の連携は評価できることから認可するべきであるとの発言があった。

賛成 19 名、反対 5 名で、承認された。

前田専務理事から、ヨットクラブ定義については、今後検討課題とするとの発言があった。

3) 休眠団体申請について

前田専務理事から資料に基づき、日本ヨーロッパ協会の特別加盟団体（艇種別）休眠団体申請について説明があった。会員減少によるもので、全日本選手権等のレース活動が困難な状況であるとの発言があった。

承認された。

4) 連盟決済規程の一部改定について

山崎会長が議長となり、連盟決済規程の一部改定について審議となった。

庄司理事から資料に基づき、連盟決済規程の一部改定について説明があった。

3月15日評議員会において、前田専務理事が事務局長との兼務が承認され、それに基づき、4月理事会で事務局長としての職務に対する報酬を支払うことを決定した。しかし、決済規程には、その事務扱いが定められていないことから、手続きを明確化するために、決済規程別表13号に「常勤役員が事務局長を兼務する場合には、その任免、分限、賞罰及び給与に関する事項は、会長が決定する」ことを追記する。その背景には、役員が事務局長兼務には常勤役員として報酬を支払うべきではないか、常勤役員と事務局長の兼務とした目的や勤務実態について理事会における確認が不足しているのではないか、専務理事が事務局長を兼ねているため現状の規程の中で報酬の手続きを行うことは管理監督上問題との発言があった。

山崎会長から、常勤役員が事務局長を兼務することについては、常任委員会において決定されていることであるとの発言があった。

河野副会長から、中山前理事・総務委員長から連盟運営に厳しいご指摘をいただきましたが、合理的判断として結論である。専務職と事務局職は、事務処理を円滑にするた

めには一体と理解できる。理事と評議員のような相互牽制とは別である。報酬については、役員報酬ではないことを文部科学省とで確認もしているとの発言があった。

出席理事過半数 21 名の賛成で、承認された。

<協議事項>

1) メンバー登録制度（学生の範囲）

庄司理事から資料に基づき、学生メンバー登録の取り扱いの変更について提案があった。現行の大学生の適用範囲から、医学部・薬学部等の 6 年制の学部に通う大学生、マスター・ドクターに進学している大学生、留年している大学生、社会人入学している大学生（MBA コース等）、各種学校、専門学校に入学している学生、高等専門学校の 4 年生以上の学生に適用範囲を拡大する。実施時期は、平成 22 年 4 月からで、次回 11 月理事会で審議、決定後すみやかに加盟・特別加盟団体へ通知するとの発言があった。

児玉常務理事から、外洋加盟団体における学生の範囲適用については適用しないことを関東 4 外洋加盟団体で確認しているとの発言があった。

坂谷理事から、外洋東海でも同様の扱いとしたい。事務処理に煩雑になることは避けたいとの発言があった。

吉田理事から、一般と学生の区別は不要との発言があった。

児玉常務理事から、外洋学連については改めて判断していただきたいとの発言があった。

安藤総務委員から、学生メンバーが外洋レースに出場できないことはないかとの質問があった。

児玉常務理事から、外洋レース適用条件は JSAF メンバーであることで問題ない。ただし、一部外洋レースには外洋メンバーが乗員の過半数とするレースもあるとの回答があった。

2) メンバー登録制度（シニア会員）

小山（泰）理事から資料に基づき、シニア会員（終身会員）について提案があった。シニア会員（終身会員）制度案は、名称をゴールド会員とする。適用年齢を 65 歳または 70 歳以上または 75 歳以上とする。メンバー会費を 3 万円または 5 万円とする。特典は、J-SAILING 年 2 回配布・ヨット関係資格の保持・傷害保険の加入資格とする。メンバー証を金色とする。勧誘方法は、J-SAILING に掲載・A 級ディンギー会員や諏訪湖 10 大学への勧誘・日本ヨットメンズクラブへの勧誘・各都道府県連

へ働きかけ・パンフレットを作成するとの発言があった。

秋山副会長から、高齢化社会に対応した制度案と理解している。終身メンバー制度を決定して、65歳以上のメンバーと関係を構築する目的から、平成22年度から推進していきたいとの発言があった。

前田専務理事から、シニア会員制度を導入することで、現在のメンバーが減少する可能性は否めないとの発言があった。

児玉常務理事から、登録メンバーのリストアップはできるので、現在のメンバーでない方を対象とするべきであるとの発言があった。

小山(利)理事から、新潟国体でヨットマンクラブメンバーに提案いただき、意見徴収したいとの発言があった。

庄司理事から、新メンバー証作成などの事務手続きで煩雑になるとの発言があった。

河野副会長から、高齢者への敬意は賛成だが、連盟の減収は避けたい。シニア会員制度でも最低限のコスト負担は必要であることからシミュレーションをした上で、実務的な管理の検討が必要であるとの発言があった。

児玉常務理事から、シニアではなく、若年層メンバーに焦点をあてるべきである。シニア制度の結論が見出せなければ、本質の議論をするべきであるとの発言があった。

吉田理事から、学生メンバー議論と同様で、外洋加盟団体は不必要と理解しているのか。外洋加盟団体も高齢化が進み、財源がない現状で、シニア制度の必要性は感じないとの発言があった。

前田専務理事から、秋山副会長と小山(泰)理事で次回理事会までに結論を出していただきたいとの発言があった。

坂谷理事から、新規メンバーの会員証発行が遅いとのこと、柴沼理事から質問を委託されているが、回答いただきたいとの発言があった。

前田専務理事から、4・5月は年度代わりで混乱を生じていたが、現在は順調に発行されているとの回答があった。

3) 連盟表彰制度

庄司理事から資料に基づき、連盟表彰への対応について提案があった。

現在の連盟定期表彰は、表彰の決定から表彰実施への期間が短い。6月評議員会ではヨットシーズン中で表彰対象者も評議員各位も参加が難しい。地域で活動されている指導者への推薦がまれである。日本体育協会や各種新聞社主催の推薦依頼が少ないなどの課題がある。

効率的に幅広く表彰者を推薦したいことから、年度内(新年会または3月評議員会)に実施時期を早める。地域で活動されている指導者へ連盟指導者委員会と連携

して候補者を推薦する。 外洋レース表彰基準を整備する。 各委員会との連携を強化する旨の対応案を次回 11 月理事会で審議・検討いただきたいとの発言があった。

林外洋計測委員長から、外洋表彰基準は連盟メンバーでなくとも顕著な功績を挙げたセラーには表彰対象者としていただきたいとの提案があった。

河野副会長から、主催団体や運営者への表彰も考慮できないか。本年度レーザーワールド主催団体のレーザー協会ならびに運営の松山氏、重氏、大谷氏は表彰対象としていただきたいとの発言があった。

秋山副会長から、3月評議員会での表彰とした場合には、表彰者との懇親会なども考慮いただきたいとの発言があった。

4) 外洋安全委員会委員長変更について

前田専務理事から資料に基づき、平成 21・22 年度外洋安全委員長の交代について提案があった。監事と委員長兼務は不適切であるとの理事会ならびに評議員会から指摘を受けて、外洋安全委員会の総意として新委員長が推薦されてきたとの発言があった。

浪川監事・前外洋安全委員長から、連盟制度問題と世代交代も含めて、理事会へ申請した。新委員長は過去の実績からも安全委員長として妥当と判断したとの発言があった。

児玉常務理事から、本協議案件を審議事項として理事会で承認していただきたいとの発言があった。

出席理事過半数 21 名の賛成で、承認された。

< 報告事項 >

1) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、平成 21 年度 IJ 推薦候補者および平成 21 年度 IJ・IU 候補推薦委員の交代について報告があった。

連盟推薦認定申請者から提出された書類に基づき、推薦委員会において推薦適否を審査した結果、岡部幸司氏、前園昇氏、山岡閃氏の 3 名を平成 21 年度 IJ 推薦候補者とした。また、平成 21 年度 IJ・IU 候補推薦委員である前園昇氏は、自身が IJ 候補推薦申請をしたため、IJ・IU 候補推薦委員を辞退し、榛葉克也氏を交代委員としたとの発言があった。

秋山副会長から、経歴については十分検討なされたかとの質問があった。

大村ルール副委員長から、経歴は十分とはいえないが、海外レース等で経験を積ん

でいると判断したとの回答があった。

2) ワンデザインクラス計測委員会報告

前田専務理事から、平成 21 年 IM 推薦候補者について報告があった。

日本 OP 協会から IM 資格更新メジャーとして、推薦認定申請として提出された書類に基づき、推薦委員会において推薦適否を審査した結果、荒川渡氏を平成 21 年度 IM 推薦候補者としたとの発言があった。

3) レース委員会報告

松原理事から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があった。

10 共同主催、22 公認、4 後援について認可した。1 公認大会については調整中であるとの発言があった。

4) 国体委員会報告

前田専務理事から資料に基づき、新潟国体における中央派遣プロテスト委員の交代および、千葉国体リハーサル大会における中央派遣プロテスト委員の交代について報告があった。

5) 財政委員会報告

斎藤財政委員長から資料に基づき、連盟事務局インターネットバンキング導入について報告があった。メインバンクのみずほ銀行から、集配サービス終了に伴い、インターネットバンキング導入の提案があったことを受けて、検討した結果、本年 9 月から導入することとした。最大の不安であるセキュリティに関しては、十分にセキュリティがかかり、専務理事と会計理事とのダブル支払承認にしたとの報告があった。

6) 外洋総務委員会報告

坂谷理事から資料に基づき、第 50 回パールレース報告ならびに 2010 年沖縄 東京レース開催案内について報告があった。

第 50 回を数え記念大会となったパールレースのレース概況説明があった。344 名の参加を得て成功裏に終了した。また、外洋東海 50 年記念誌を作成した。沖縄東京レースが開催されなくなってから久しいが、日本最長外洋レースとして「沖縄 東海レース」を開催し、本格的な沖縄レース再開を目指したい。日程は来年 4 月 29 日沖縄・宜野湾沖スタートとする。次回理事会にて共同主催として提案するとの発言があった。

7) 外洋計測委員会報告

林外洋計測委員長から資料に基づき、2009 年 IRC 申請の推移について報告があった。

IRC レーティング導入から 3 年が経過して、8 月末現在で約 270 艇の申請があり、順調に伸びている。IRC 委員会委員の努力に感謝するとともに、約 300 艇で独立採算ベースになることから、委員会活動への予算処置も考慮していただきたいとの発言があった。

8) ジュニアアカデミー委員会報告

中村ジュニアアカデミー委員長から資料に基づき、平成 21 年度ジュニアセーリング・シーマンシップアカデミー上期実施状況及び下期実施予定について報告があった。現在まで 9 箇所で開催した団体からは好評を得ていて、内容は J-SALING で紹介している。30 回を開催予定としているので、引き続き各水域の協力をお願いしたいとの発言があった。

9) 医事・科学委員会報告

前田専務理事から資料に基づき、新型インフルエンザ対応について報告があった。山川医事科学委員長から、新型インフルエンザへの対応については、通常のインフルエンザと同様の対応でかまわない。予防としての漢方薬の服用中は、ドーピング検査に注意が必要である。また、むやみにタミフル等抗ウイルス剤を服用すると耐性ウイルスをつくる可能性があり推奨できないと指摘されているので参考にさせていただきたい。また、国土交通省から「新型インフルエンザ(A/H1N1)への対応の徹底について」文書依頼があったとの発言があった。

10) 普及委員会報告

前田専務理事から資料に基づき、普及委員会報告があった。本年度も日本財団助成事業(ファミリーレース・セーリング体験・教職員セーリング指導者養成講習会)を各地で開催している。しかしながら、施設や参加人数が少ない団体では助成事業対象となれないことから、連盟独自の普及事業の実施計画を考慮している。対象は、ここ数年日本財団助成事業を実施していない団体で、事業予算 1 箇所 10 万、最大 6 箇所とした。ヨットの普及につなげたいことから、各水域に普及担当を決めていただき、協力いただきたいとの発言があった。

11) 指導者委員会報告

小山(泰)指導者委員長から、指導者委員会報告があった。11月14~15日、東京夢の島マリナーにおいて全国安全指導者講習会を開催する。講習会内容(案)・申込書・宿泊施設等について案内があった。

12) 平成 21 年度臨時(第 1 回)理事会議事録(案)

前田専務理事・事務局長から資料に基づき、平成 21 年度臨時(第 1 回)理事会議事録(案)について報告があった。

13) 平成 21 年度第 1 回評議員会議事録(案)

前田専務理事・事務局長から資料に基づき、平成 21 年度評議員会議事録(案)について報告があった。

14) 平成 21 年 7 月末予算管理月報

齋藤財政委員長から資料に基づき、平成 21 年 7 月末予算管理月報について報告があった。

15) 平成 21 年度(8 月 25 日現在)メンバー登録数報告

松原理事から資料に基づき、平成 21 年度(8 月 25 日)のメンバー登録数について報告があった。総合計 9,071 名との発言があった。

<スタディ項目>

庄司総務委員長から、公益法人改革 3 法施行への対応について、理事各位に説明があった。

安藤総務委員から資料に基づき、公益財団移行のためのステップと作業概要について、新制度への移行へ向けた留意点、新制度における理事(会)・評議員(会)・監事の権限及び義務(現行制度との違い)、新制度移行へのステップ、日本体育協会の対応状況について説明があった。

<その他>

前田専務理事から、レーザーラジアルワールド終了については次回理事会で報告するとの発言があった。

小山(泰)理事から、国際交流ジュニアヨットクラブ競技会について報告があった。海外 9 チームが参加した大会は、レースでは風に恵まれなかったが、レセプション・歓迎会も成功裏に終了し、参加各国から礼状が届いたとの発言があった。

中村理事から、山口県体育協会 YAMAGUCHI ジュニアアスリートアカデミーについて報告があった。山口県ジュニアアスリート発掘事業を開催している。適正テストを受けた 22 名が選抜され、内 12 名がセーリングを希望し、ウィンドサーフィンで 3 回のプログラムが終了した。改めて報告したいとの発言があった。

鈴木理事から、和歌山県ゴールデンキッズ発掘プロジェクトについて報告があった。和歌山では 2006 年からすべてのジュニアを対象に行っている。40~60 名を選抜し

て種々の競技スポーツでプログラムを実施、ゴールデンキッズトライアルを行っているとの発言があった。

前田専務理事から、10月2～4日に横浜フローティングヨットショーが開催される。アクセスディンギーレースが開催されるとの発言があった。

前田専務理事から、10月14日に故古橋廣之進氏お別れ会が青山葬儀場で行われるとの発言があった。

前田専務理事から、8月12日逝去された故田窪公子氏の報告があった。

前田専務理事から、次回理事会の福岡開催について各理事に賛否をうかがった。また、理事会資料のメール配信を次回理事会から施行するとの発言があった。

平成21年度臨時(第2回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成21年 9月 5日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 外 山 昌 一

議事録署名人 理 事 倭 千 鶴 子